

地域研 フォーラム Forum



vol.5 2010 Feb.

vol. 5 2010 Feb.

地域研フォーラム

園比屋武御嶽石門



まえがき

特別研究員寄稿

宮里 朝光 「首里の正月」

現代GP

やんばるエコツアー企画書

社会人学び直しGP

高大連携GP

移動市民大学in奄美大島 実施報告

戦略連携GP

名瀬に感じた、幸せのコンパクトタウン

土曜教養講座

第452回 今日からできる オキダイナ栽培！

所内雑記

まえがき

2月の予定もぎっしりです。奄美で移動市民大学開催。「まちづくりリスト大学間戦略的連携GP」では神戸、札幌、東京へ。月末には法政大学で国際シンポジウムが開かれます。

一方の清らしまづくり「南西諸島高大連携GP」スタッフは宮古島、久米島、石垣島、徳之島、沖永良部島、与論島へ。石垣島では2月14日（日）白保公民館で「ジュニア研究支援の発表会」開催。八重山からの応募が多かったので、今回は会場を那覇と石垣の二つに分けました。スタッフ一同、こちらから石垣島に向いて発表会を開催することにしましたが、意外にも関係者には不評。何故ならば・・・子どもたちがこれを機会に那覇へ行くのを楽しみにしていた、とのこと。なるほど。でも優秀なグループ2組を那覇にご招待します。子供が発表するのなら私も、と母親が那覇に出かける立派な口実が出来ます。離島の事情をよく知らず、失礼しました。2月27日（土）に沖縄大学で開催。

原稿執筆時点（1月28日）では既に地域研究所叢書が本屋に並んでいるはずです。

タイトルは「徹底討論 沖縄の未来」大田昌秀・佐藤優が4時間半にわたって繰り広げた対談です。是非お読みください。大田さんが校正に一週間かかった、と言っていました。対談後に沢山の表などを付けくわわって充実しています。是非ご一読ください。



さてまちづくりリストGPでは、幸福とは何か、を指数化することを考えています。ヒマラヤのふもと・ブータンではGNP（国民総生産）ではなくGNH（国民総幸福）増大を国の目標に掲げています。よしそれならば調査、研究、視察・・・名目はなんでも良い。ともあれ見てこなくては話になるまい。と衆議一決し（古い言い回し！）ブータンへ行くこととなりました。文科省採択・大学間戦略的連携GP様様です。

そのお話はおいおいするとして。4月から地域幸福論という講義を開始します。明治の古き良き時代のお話も盛り込みます。「逝きし世の面影」（渡辺京二・平凡社）よりメモをご紹介します。

「異邦人たちが予感し、やがて目撃し証言することになった古き日本の死は、個々の制度や文物や景観の消滅にとどまらぬ、ひとつの全体的関連としての有機的生命、すなわちひとつの個性をもった文明の滅亡であった。・・・今日の日本の論客は、彼らの日本賛美をオリエンタリズムの幻影として否定する一方、彼らの日本批判については鬼の首を取ったように引用し、全く無批判に受容しているのだ。・・・在りし日のこの国の文明について考えるとき、われわれは、それがいかに雑多で細分化された生き場所ないしかくれ家を提供する文明であったかということ、つねに念頭に置かねばならない。生態学のニッチという概念を採用するなら、それは棲み分けるニッチの多様豊富という点で際立った文明だった。」

どうです？わくわくするような時代でしょう。あまりピンと来ない？外国人の見た当時の日本は誇り高き豊かな文明を持った国だったのです。現在のブータンのように。

チベット仏教を知らずしてブータンに行くなかれ、との助言も頂きました。ダライラマ14世のまんが本は読みましたが・・・これから勉強と直観を磨く毎日となります。

2010年2月
沖縄大学地域研究所
所長 緒方 修

首里の正月

宮里 朝光
御茶屋御殿復元期成会会長

琉球王国の首都・首里の歴史文化、生活を記録研究する「首里古事典編集委員会」の準備を進めています。2010年の庚寅の年明けにあたり、古い首里の正月風景を、御茶屋御殿復元期成会会長の宮里朝光が紹介します。

真栄里 泰山

①トウシヌユル（年夜）

トウシヌユル（大晦日）には、大掃除をして位牌壇やフィヌカン（火之神）を清め、ウカリーカビ（黄赤紙）を位牌壇には二組、火之神には三組を供え、ウチャヌク（大中小重ねた餅）、デーデー（橙）やシークワシャー（小蜜柑）を供える。団子を道具類にも置いて年とらすという。ウエンチュ（鼠）のために天井や桁など置いて、「ウスメー、ハーメー、トウシトウリヨウ」という。庶民は、団子の代わりにシークワシャーを置く。ウカリーカビは、里之子家は白赤黄と重ね、筑登之家以下は白黄赤と重ねて供える。

位牌壇の前に、三方にミジフィチ（水引。縁に五寸幅の眉を付けた水色の幕）を回したトーデー（ウトークンともいう唐卓）を置き、上にウトオール（灯籠）、ウクフワン（御籠飯）とウシジビン（御錫瓶）、ウコール（御香炉）、ウチャトウ（御茶湯）、ウサキ（御酒）、シンマーチ（芯松）を生けたハナイチ（花生）を供える。

門や床の間、位牌壇や柱には、朱紙に書いたレン（聯）を貼った。ウクファンには米を盛り、上にタン（木炭）三本をクープ（昆布）で巻いて載せる。ウクファンがなければチョーバン（京升）などを使う。シンマーチは、芯が出るように葉先を水平に切る。春分を過ぎていればそのままだが、春分がまだであれば葉の切り口に米粉を付け、ユチカミトーン（雪を被っている）という。

床の間には、「福祿寿」のカキムン（掛物）などを掛け、シンマーチを生け、チョーシブル（丁字風炉）を置いて丁字之香りを部屋中に漂わした。

②年の始まり

正月三が日は掃除をしない他県と違い、朝早く起きると戸を開け掃除をする。やがて隣近所の子もたちが「ウビー ウサギヤビラ（御水を差し上げます）と言って門口に来る。カリームン（祝儀）として何組来ても買ってやる。その御水を位牌壇と火之神に供え、後に湯を沸かし、位牌壇にウチャトウ（御茶湯）とユチグンヌウフルメー（四組の料理）をお供えする。

家族全員が集まり、当主が線香を上げる。ダキウコー（竹芯香）三本（御殿では五

本)を捧げ、香炉の中央に一本、次いで左、右と立てて、ユチ ウニユフェー(四拝。坐して一礼、立って手を合わすことを四回繰り返す)すると、男たちは一斉に四拝する。女は同時に、ウスシヲウガヌン(手を合わす)。終わって御椀の蓋を開けて薦める。その後、華族全員が、男から先に一人一人焼香する。終わると一同揃って朝食する。

料理は、トゥシヌユル(年夜)に作ったユチグンヌウフルメー(四組の料理)で、ウチャワキ(御茶請)は、コークワーシ(落雁)やルクジュー(焼き六条豆腐)とムムグワー(塩漬け楊梅)などである。那覇の知人から年始のナトゥーンズ(黒砂糖や味噌を入れた餅)が贈られる。ミフィルマ(御昼間。お八つ)は、ターンム(田芋)のウシームンや炒め物などを供える。

③年頭

年頭の回礼は、元旦から二十日正月の間です。女は、ウシーン(御客)のウトウイムチ(接待)があるから普通ウトウシビー(御歳日)の日に行く。挨拶は「キーショウグワチデービル」という。大人はさらに付け加えて「ワカドウシ ウトウンシェービティー」、「ワカワカートウ ウトウンシェービティー」、「ウワカクウナンシェービティー」などという。男の子は、ウフィルマ(御広間。一番座)に入り、女の子は廊下で挨拶すると、「カンチャーディ(こっちへいらっしやい)と声がかかって進んでいくと、赤と黄色のこよりでなった紐で、何枚かのミーフガー(一文銭)を抜きひねったイリージン(お年玉)をくださるので、両手の掌を重ねて頂戴する。貰った銭は、チャンクルーやウーブーなどをする。

ウフドウンチ(大殿内、本家、ムートヤー)やウトウスイ(御年寄)のいる家庭に、あいさつに行く。親戚の家には線香を持っていくが、また、ウチャ(御茶)、ソーミン(素麺)、カチュー(鯉節)などを持参して位牌壇に供えて拜むこともある。

正月だけは、昼間から御酒を出す。お客にはまず煙草盆、次いで御茶、ウチャワキ(御茶請)、ウシームン(単独に食べる料理)が出る。食べ終わると、カラザカナ(乾肴)が出てウサキ(御酒)が出る。酒は、四十五度で割らずに親指大の杯で飲む。乾肴は、アギムン(揚げ物)とシミムン(煮物)である。ウシームンは、イナムドウチ(猪凝)、シカムドウチ(鹿凝)、ルーイソーミン(料理素麺)、ハナシンスー(花芯寿)、トウイ(鶏)、カチュー(鯉節)などいろいろある。本膳料理に付随するときは、ソーミン(素麺)、イナムドウチ(猪凝)、ナカミ(中身)が出る。

以下、首里の正月は、三日節句(ミツチャヌ シック)、七日節句(ナンカヌ シック)、十五日(ジュエグニチ)、十六日(ジュールクニチー)、二十日正月(ハチカショーグワチ)、歳日(トウシビー)と続くのである。

美ら島・環境まちづくりリーダー育成事業 2月

みなさま、今月もエコリーダー育成事業をよろしくお願いいたします！

1月のご紹介する活動は、【水俣勉強会】です。

昨年末、浜川と私は水俣へ視察に行って参りました。財団法人水俣病センター相思社 (<http://www.soshisha.org/>) 職員の弘津敏男さんに案内をしていただきました。

弘津さんのお話は私たちの今まで水俣に対する意識を打ち壊すものでした。そして、ここで知った事実や私たちが感じたことはきちんと学生に伝えなければならぬと思いました。

勉強会で私が気をつけたことは、

- ・憶測でものを言わない
- ・あくまで自分が感じたことを伝えるだけで、学生の意識を操作しない

の2点です。

学生の意識を操作しないように心がけながらも、私の思いとしましては学生が水俣のことを知り、

- ・水俣を教訓にこのようなことを二度と繰り返さないよう未来のために考える
- ・今も続く水俣病問題に当事者意識を持って考える
- ・水俣病でつらい思いをしたすべての人たちに対し心から鎮魂を祈れる

ようになってもらいたいと願っています。

以上、2月はやんばるエコツアーを企画しております。

中村 大樹〈現代GP担当〉



【やんばるエコツアー 企画書】

地域研究所 現代GP

- ◆趣旨：沖縄県北部の豊かな自然を持つ山原地域‘やんばる’には貴重な固有種がたくさん生息している。だが、やんばるはその豊かな自然の一方で自然破壊の著しい地域でもある。やんばるの自然を感じ、やんばるに住んでいる人々からやんばるの現状を学び、そこから問題や課題を見つけだしていくことがこの自然観察ツアーの趣旨である。
- ◆期間：2010年2月23日（火）
- ◆集合場所：沖縄大学 中庭
- ◆集合時間：9時30分
- ◆解散時間：18時30分
- ◆目的地及び経路：沖大～国頭～東村～沖大
- ◆参加人数：28人
- ◆講師：盛口 満（こども文化学科）

行程表 2月23日（火）

9:30	沖縄大学を出発。末吉公園へ
11:30	末吉公園を出発。那覇インターへ
12:00	伊芸SA で休憩
12:20	許田インターから道の駅“ゆいゆい国頭”へ
13:20～13:50	“ゆいゆい国頭”で食事
14:10	大国林道へ。やんばるの森観察
16:10	やんばるの森観察終了。帰路へ
17:10	許田インター
17:30	伊芸SA で休憩
18:00	那覇インター到着
18:30	沖縄大学に到着。解散

* このエコツアーは、現代GPの補助を受けた事業です。

美ら島南西諸島高大連携プログラム 2月

みなさまこんにちは、沖縄大学地域研究所に来てまだ、一ヶ月もたたないうちに出張に次ぐ出張によりほとんど沖縄本島にいません。凄いです、凄すぎます。世間のニュース等とは違い次々と仕事あり時間を効率よく使わないといけないと改めて感じました。

こんなに忙しくしていただける現状にととてもとても感謝しています。

沖縄大学地域研究所のみなさん、いつも支えてくださっているみなさん、本当にありがとうございます。

下地 克人〈高大GP担当〉

高大GP 1月の活動紹介

①1/12（火）～1/16（土）石垣島、西表島出張

今回は、ジュニア研究支援参加グループの進捗状況確認の為に石垣・西表へ行ってきました。離島の小学生は、本当にカワイイですね!!また、生徒の熱心な研究に取り組んでいる様子を見て、とても感動しました。“こちらも頑張らなければ”と思いました^^

②1/29（金）～2/1（月）奄美大島出張

1/30（土）に奄美市で、1/31（日）に瀬戸内町で移動市民大学を行いました。講師は、島尾伸三氏（写真家）です。奄美に行く度に、沖縄と同じニオイを感じています♪奄美は。。。住んでいる人が皆温かいですね。

来月は、怒涛の離島出張ラッシュが待っています。那覇には1週間いるかいないか…（笑）。最近は、「離島でどんなイベントをやったら楽しいかな～」といつも考えています。また来月の出張報告をさせていただくのが楽しみです☆

橋口 望美〈高大GP担当〉

移動市民大学実施報告

奄美と琉球球 ーその魅力～琉球弧としての奄美大島を考える～

- 日 時：2010年1月30日（土） 14:00～16:00（開場12:30）
- 場 所：鹿児島県立奄美図書館
- 日 時：2010年1月31日（日） 15:00～17:00（開場14:30）
- 場 所：瀬戸内町中央公民館

感想（会場アンケートより）

●奄美にはまだ大学が無いので、是非沖縄大学分校で良いから造って欲しい。人文学部の中に民族音楽学科を作って、奄美の音楽・沖縄の音楽・台湾の音楽・邦楽・アイヌモシリの音楽・朝鮮中国の民族音楽・その他西洋音楽を含めた総合音科をつくって欲しい。理科系の学部をつくると基礎技術等が積み上げられるので、繊維学部・学科等をつくり、大島紬の技術等を活かして繊維産業等を盛んにして欲しい。（60代・男性）

●奄美の言葉の発音が豊富なことがわかった。奄美の方言のルーツが日本の古語だけでなく、他の国からもきていることがわかった。奄美と琉球のつながりを聴きたかった。（70代・男性）

●とても楽しい講演でした。私は大島高校で教師をしています、島口のルーツに関することや島口についてとても楽しく学ばせてもらいました。またお聴きしたいです。（40代・男性）

●島尾さんの島口での講演を初めて聴きました。微妙な表現が豊かにあるのに感動しました。島の今後の方向の為にも、もっと明確に整然とした流れの講演だと理解が深まります。（50代・女性）

●今日はありがとうございました。島口懐かしかったです。「月の家族」の本も読みました。島にもっと足を運んでいただきたいです。そしてもっと多くの方に話を聞いてもらいたいです。（60代・女性）

●「移動市民大学」とは、研究所の特徴を活かした素晴らしい企画ですね。地元の人々の参加を考えているのは私の大学でも参考にさせていただこうと思います。高大連携の1つの方向をご教示いただきました。島尾さんの独特の語りも意味が分からない部分もありましたが、楽しいひとときでした。誰もが方言について考えるべきポイントが多くありました。（60代・男性）

●面白かった！又お願いします。（40代・男性）

●緒方さんの世界遺産についての説明は、わかりやすかったです。今まであまり興味もなかったが、少し知りたくなりました。奄美高校の皆さん、すばらしいステージでした。若い方々の一生懸命さに心打たれました。島尾さんの講演は、奄美の方言も入れ懐かしい言葉で面白かったです。（言葉のルーツ、東南アジアの旅行の話など）小学・中学時代を楽しく過ごされたのだなと感じました。幼いときの思い出を大切にできることがいいなと思います。（60代・女性）

●興味深いお話の数々、とても楽しく拝聴・勉強させていただきました。何よりも驚きなのは、島尾先生は名瀬での生活は小・中学校時代のわずかと聞いていますが、まさに「三つ子の魂」ですね。ずっと名瀬で生活している私達より詳しく、改めて方言の素晴らしさ、大切さを感じました。私達はもっともって「奄美語」を学んでいかなければいけないと思います。まずは日常生活の中で、奄美語に耳を傾け理解し、使いこなせるように勉強していきたいと思います。（40代・女性）

●言葉の語源のルーツはとても奥深く大切なものだと思います。方言の大切さを再確認しました。（40代・女性）

●改めて島口の大切さを感じ、再認識した。ありがさまありようた。是非またお会いしたい。（50代・女性）

●久しぶりにトンフツ一語を懐かしく聞きました。島言葉方言が今後どのような運命を辿っていくのでしょうか。考えさせられる提言のような気がしました。言葉のルーツを考えると夢とロマンが湧いてきます。手話の発表は心にジーンとききました。（60代・男性）

●先生の島口になつかしさを感じるとともに確かさにとても感動しました。幼いときの言葉を日常の対話の中に使っていきたいと今日は強く思いました。（70代・女性）

●方言をしみじみと話されたことに感動しました。（70代・女性）

●シマクーチが楽しく聴けた。楽しい本をたくさん書いてください。（50代・男性）

●歴史を感じ、良き時の流れを感じた。「ことば」と「人間」の関係を考えさせられた。『心が素直に』なるきっかけとなった感がした。（60代・男性）

●方言を混ぜながらのお話はとても良かったです。どのようにしたら話せるのかと思いました。貴重なお話、お時間ありがとうございました。(50代・女性)

●島ユムタがすぐわからず、皆さんと笑えないのがもどかしかった。(大和んちゅでありながら、私達も鹿児島弁を忘れつつあります。使えません。)楽しいお話ありがとうございました。(40代・女性)

●奄美の方言(島口)は、世界的にも稀なくらい急激に消滅する恐れがあるらしい。島唄は全て方言でありユムタであると思う。現在の教育では、昔と違い方言を使おう、島ユムタで劇を作ろうなど多様な教育環境にあると感じるが、それも学校次第、先生次第である。教育指針の中に郷土教育の推進が示されているものの実際は地域次第、学校次第である。そのような中、ここ奄美(奄美市)も沖縄や与論などのように、方言(島ユムタ)に関する条例の制定の必要性を考える。(30代・男性)

菓子等食品ビジネスプランナー養成プログラム 2月

沖縄では一月の中頃から日本一早い桜が咲き始めます、本土のように薄いピンクの花弁が一弁ずつ風に吹かれて舞い落ちるといったような風情はありませんが、濃い艶やかなピンクの花を咲かせてくれる寒緋桜散策が楽しみです。

さて、先日菓子等食品ビジネスプランナー養成プログラム上級講座第4回目が開催されました。基本の4回の講座は最終、受講者からも「今日の講座が一番良かった」という声がたくさんありました。

午前の講義は、もちの店やまや前社長の津嘉山朝康様。テーマは「沖縄伝統菓子の現状と未来」津嘉山様は沖縄伝統菓子の将来性は大いにある、と断言しています。

午後は受講生の現状報告・試作品意見交換会があり大変刺激的でした。感動のあまり涙したという人も。試作品はどれも素晴らしく素材の特性が活かされた作品でした。それぞれの作品は2月6日（土）、2月7日（日）奥武山総合運動公園にて開催の「おきなわ花と食のフェスティバル」沖縄大学ブースで出展されますのでお楽しみに！

木戸 香織〈社会人学び直しGP担当〉



全国の地域で活躍できるまちづくりリスト育成プログラム 2月

名瀬に感じた、幸せの「コンパクトタウン」

奄美市で移動市民大学を行った。10年前、取材とヒアリングで訪れて以来の名瀬の街。こぎれいで適当な道幅と長さの商店街アーケードは、思ったよりシャッターが閉まっている店が少なかった。界隈にはおばちゃんたちががんばっている服屋さんが目立った。食品店にはソテツの実やモロミがふんだんに使われた味噌が並んでいて、なめてみたくなる。コロッケや天ぷら、あえものなどがガラス越しに見える惣菜店には、学校帰りの高校生たちが集まる。パン屋やケーキ屋も10年前にはこんなになかった気がする。

一緒に歩いたスタッフが、「コンビニが少ないから、落ち着くんですね」と言う。そういえば、街なかで見かける女子高生のスカートの長さや着こなしが普通だったり、ビーチサンダルをはいている子もいればタイト姿の子もいるなど、若い子の服装に素直さが表れていることも落ち着く一因ではないかと思った。自動車交通量はそれなりに多いが、わき道まで侵入してくる車は少ない。街は歩きやすく、歩いて楽しい。山と海が近くまで迫り、自然とまちと人がうまく調和していると思った。街なかを流れる川も比較的きれいだった。

わが町・那覇を振り返ってみると、なんと息苦しいことか。どこもかしこも車だらけ、ギャップだらけで歩きにくい道。何をしても車を使わなければ動けない利便性の悪さ。気軽に遊びに行ける山や川はおろか、きれいな海さえない自然環境。観光客が買うものと県民が買うものが全く異なり、地域の台所として機能していない中心商店街。大勢の修学旅行生も含め、都会のコピーが氾濫しまくった画一的なファッションの高校生たち。

奄美は、沖縄よりも経済的に厳しい環境にあり、過疎や衰退も進行している。大学はなく、専門学校は2校。このため19～30歳の人口が圧倒的に少なく、これが生産や消費に与える影響は大きい。名瀬で服屋をやっている知人のおばちゃんに聞くと、少子化で奄美大島にある高校4校のうち2校が統合の危機にあり、郊外に大型店やパチンコ店の出店で中心市街地の衰退もかなり進んでいるという。たしかに人通りは少ない。那覇は大通りが多くても、町にとって大事なものの衰退は名瀬よりはるかにひどい。那覇と名瀬とでは市の規模など条件は異なるが、少なくとも無秩序な開発と行政の不作為で住みにくさは深化している。

さまざまな面で厳しい状況が続いてきたが、少し見方を変えれば名瀬は人々が何歳になっても幸せに暮らせる街となる可能性を感じる。名瀬は役所の用事も買い物も学校も文化鑑賞も、全部歩いて済ませることができる。ある意味、

理想的なコンパクト・タウンだ。那覇で、博物館と図書館両方に歩いていける人はいないだろう。沖縄は奄美に目を向けないが、沖縄が幸福になるヒントは案外、琉球王国時代に支配域にしていた奄美にあるかも。

稲垣 暁〈戦略GP担当〉



完成した新館ビルディングに日増しに生活感が増しているのを感じ、卒業間近の4年生たちが慌しさの中で日々満喫しようとする様子を横目に見るこの頃です。

担当している「まちづくりリスト育成プログラム」においては、学内及び学外の関係される方々と話し合いながら、新年度スタートに向けて計画を現実化しようとしているところです。

「依存する他者が一人ならば従属し、相手が多ければそれだけ関係性は豊かになる」と言われた言葉を思い出します。周囲におられる素晴らしい方々と、大いに協力してすすみたいと思っています。よろしく願いいたします。

寺井 敦子〈戦略GP担当〉

第452回 沖縄大学土曜教養講座

今日からできる オキダイナ栽培



講師：山門健一（沖縄大学教授）
仲宗根出（南部農林高校教諭）

2006年に、沖縄大学地域研究所熱帯野菜研究班が中国から持ち帰った新種の葉野菜は、「オキダイナ(沖大菜)」として名付けられ、現在、南部農林高校、富古総合実業高校、花野栗村で無農薬の栽培試験を行っている。夏場は、沖縄産の葉野菜は少なく、県外産が大量に入ってくるという傾向がある。オキダイナは周年栽培ができ、夏場の主力葉野菜としても期待されている。オキダイナはレタスの仲間で、「サラダによし、炒めてよし、鍋やみそ汁にもよしの野菜」である。昨年、オリオンビール・サマーキャンペーンの「新鮮沖縄うまいむんセット」の中にも取り入れられた。

栽培法とともに、今後の市場開拓も視野に、オキダイナの展開について報告する。



2010年 **2/20** 土 14:00~16:00

場所：沖縄大学本館103教室



種子も販売します。
**当日
オキダイナ
販売!**

お問い合わせ

沖縄大学地域研究所

TEL: 098-832-5599

FAX: 098-832-3220

E-mail: chiken@okinawa-u.ac.jp

バス：沖縄大学前下車

市内線→那覇バス6番

市外線→35番、40番、100番、109番

※駐車場に限りがあります。公共交通機関のご利用の協力をお願いします。



所内雑記

vol.5



沖縄大学地域研究所
副所長 朝賀 広伸

子どもの本当の名前は何か、皆さんはご存じだろうか。それは「未来」である。

子どもは、未来の収穫の畑である。その子どもの心に、種を蒔こう。正義を与え、歓喜を与えてあげよう。

子どもを育てながら、我々は「未来」を育てているのである。「育てる」という言葉は、何と深い意味を持っているのだろうか。

我々の目の前にいる子どもたちを、育てていこう。そうすれば、新しき世紀

は赫々と光り輝くであろう。

子どもの中に燃える炎こそ、未来の太陽なのである。

—140年以上も前の時代に語られた言葉。ユゴーの思いは、今なお私たちに強く訴えている。

地域貢献部門

主事 浜川 智久仁

沖大が奄美で講演会を企画しているとの話を聞いて、「沖縄の文化侵略だ！」という人もいるそうですが、お互いの文化から学ぶことも多いと思うので、ぜひ、今後もいっしょにやっていきたいというのが、沖縄側の気持ちです。

研究部門

副主事 後藤 哲志

1月31日、講演会「道州制論議・沖縄では今」が奄美で開催された。都道府県制がいいのか道州制がいいのか、道州制なら奄美は九州へつくなのか沖縄へつくなのか、帰属意識や財政の面からの議論が印象的だった。もちろん答を出すような集会ではなかったが、奄美には、どちらかという主体性を欠いた雰囲気がある。日本をつくる一構成員として奄美がクローズアップするようなシーズは何か。

一方で、都道府県制も道州制も手段である。どのような地域あるいは日本をつくるのかという議論と同時に進めなければ、手段の選びようもない。どのような琉球弧を目指すのかという話とあわせてこの議論が進むことを望む。その時沖縄は、普天間飛行場を徳之島

に移設する政府案を「州内移設」と認識する覚悟が必要となろう。

事務
小林 己記

沖縄のバス

「沖縄のバスは手を挙げないと止まらない」

手を挙げないまでも、乗りたいことをアピールしなければ乗車できないことがあるのは本当だ。

これまで2度私の目の前をバスが通り過ぎて行った。

この経験を踏まえ、乗りたいバスが着たら運転手を見て車道に歩み寄り、「乗ります（乗せてください）」とアピールするよう心がけている。

しかし、今朝は雨だった。傘越しの私の視線も数歩前に出た動きもバスの運転手にはわからなかった。伝わらなかった。・・・通り過ぎるバス。慌てて追いかけて乗車した。

車の免許を持たない私にとってバスは大切なありがたい交通手段だが、朝出勤時に通り過ぎるバスには閉口してしまう。沖縄のバスに乗るときは、まだまだ積極的な乗車の意思表示が必要なようだ。

事務
仲宗根 礼子

沖大の新校舎が完成しつつある。

旧本館と旧体育館の間にあったちょっとした広場は、木陰にベンチ、涼しい日にはお弁当を食べる学生達、大学祭では屋台広場、卒業式の時には先生方と学生達が和やかに語らう、ステキな

スペースだった。我が物顔で鳴いていたセミの姿を確認しようと、樹を見上げつつ1号館へ横切ってゆく、ほんの10秒足らずの時間が私は好きだった。台風でも倒れなかったブーゲンビリアやインドザクラの鮮やかなピンクも思い出される。この季節だからそういったものが懐かしく思えるのかもしれない。

業務上の利便性や効率は格段とあがるに違いない新校舎。どうか心和む空間が搜せますように。。。